

栃木県地域公共交通計画の概要

令和6(2024)年3月26日 県土整備部交通政策課

1 計画の概要

(1) 策定の趣旨

人口減少に伴う公共交通利用者の減少や運転士不足により公共交通サービスの維持が課題となっている中、持続可能な公共交通サービスの確保・充実を図るため、県・市町・交通事業者等の各主体が共通認識をもって取り組むための基本方針や目標を定め、目標達成に向けた施策等を整理した上で栃木県全体の公共交通政策のマスタープランとして策定するもの。

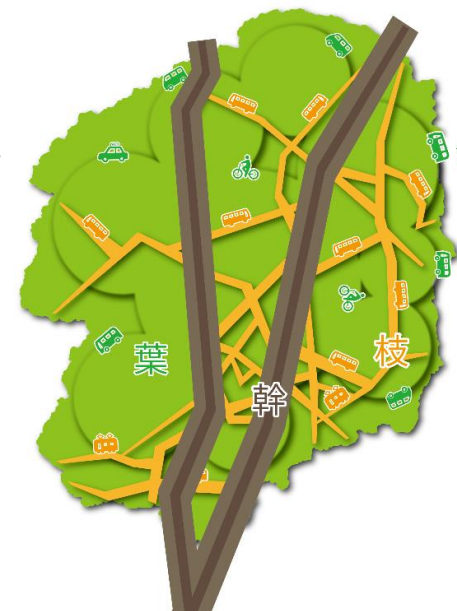
(2) 計画期間・計画対象区域

令和6(2024)年度から令和10(2028)年度までの5か年・栃木県全域を対象

※公共交通のネットワークを「木」の幹・枝・葉に例えて、交通結節点およびそれらをつなぐ交通軸を設定

2 計画の構成

- (1) 現状分析、アンケートやヒアリング等に基づく県内地域公共交通の課題を整理
- (2) 整理した課題の解決に向けた基本方針と目標を定め、維持形成すべき公共交通ネットワーク※を設定
- (3) 基本方針、目標を達成するために、関係者間の役割分担、施策を整理



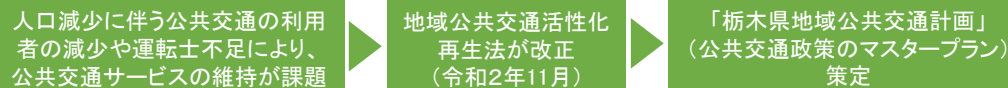
図：公共交通ネットワークのイメージ

3 県全体の公共交通の基本方針と目標

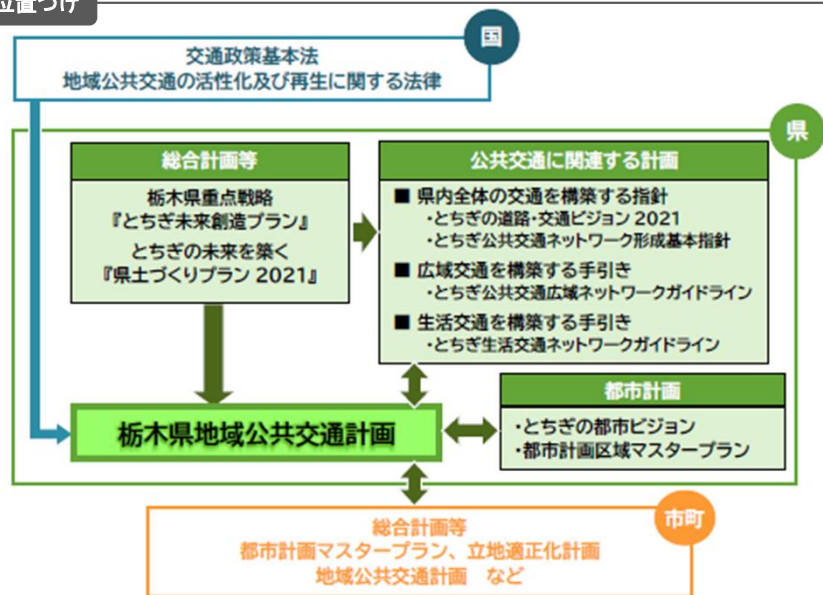
基本方針 みんなで一緒に「つくり」・「まもり」・「そだてる」とちぎの未来に繋げる公共交通

- 目標① 公共交通ネットワークの維持・形成
- 目標② まちづくり等と連携した公共交通サービスの充実
- 目標③ 各主体が共創した公共交通の運営維持

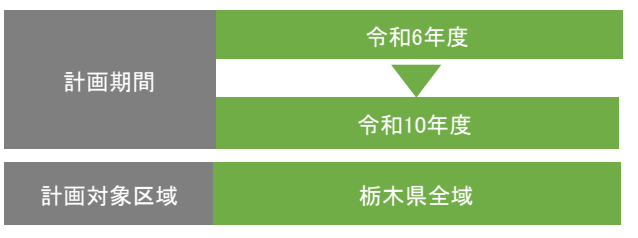
計画策定の趣旨



計画の位置づけ



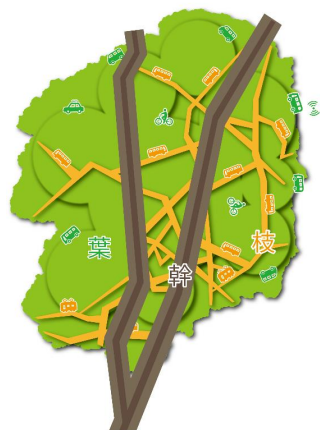
計画期間・計画対象区域



県全体の公共交通の基本方針

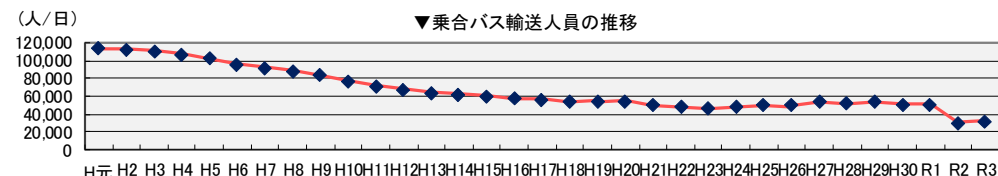
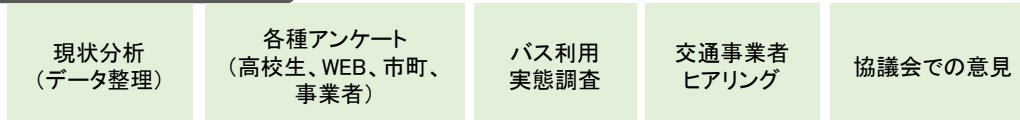
みんなで一緒に「つくり」・「まもり」・「そだてる」
とちぎの未来に繋げる公共交通

公共交通のネットワークを「木」の幹・枝・葉に例えて、
交通結節点およびそれらをつなぐ交通軸を設定



図：公共交通ネットワークのイメージ

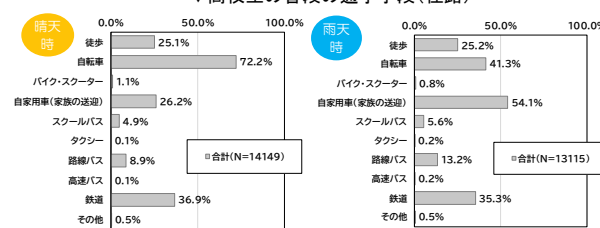
県内の地域公共交通の課題



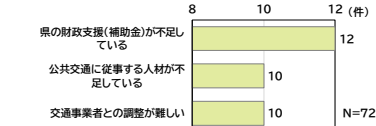
生活交通運行に係る公的補助・負担の推移



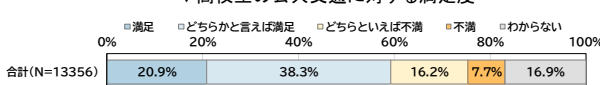
高校生の普段の通学手段(往路)



市町における課題(上位3つ)



高校生の公共交通に対する満足度



課題①: 公共交通の持続可能性

- 新たな日常とこれからの公共交通
- 生活交通運行に係る公的負担額の増加
- 複数の輸送モードが共存できるような配慮が必要
- 交通事業者や市町における公共交通に従事する人材不足の解消に向けた取組の推進

課題④: 移動制約者への対応

- 免許証返納者数の増加と移動制約者との関係
- 公共交通がなければ自立した通学ができない学生への対応
- 過度な自動車依存による人口100人あたりの自家用車保有台数の高さ

課題②: 利便性向上

- 公共交通に関する情報の周知不足
- 観光客・来訪者に対する公共交通への案内が不十分
- DXなどの新技術(配車アプリやキャッシュレス決済)の導入
- 公共交通サービスと移動ニーズ等とのミスマッチ

課題⑤: 他分野との連携

- まちづくり等と連動した公共交通の実現
- 福祉交通の視点からの位置づけ
- 自動車から公共交通への転換によるさらなるCO2排出量の抑制
- ピーク・オフピークの差の平準化(企業や観光事業者等との連携)

課題③: 利用促進

- 通勤・通学における公共交通の交通手段分担率の低さ
- 公共交通に対する満足度の向上
- 県民の公共交通の積極的な利用

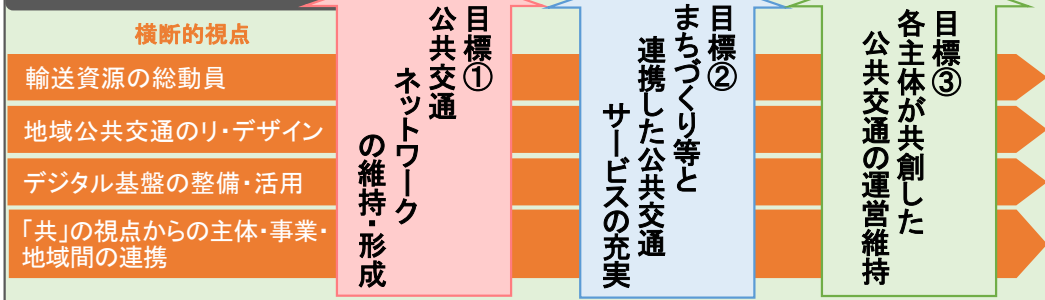
課題⑥: 交通事業者や市町との連携

- きめ細かな公共交通サービスの検討・提供に向けた関係者間の連携
- 客観的情報の共有不足
- 県の支援制度の現状と市町等が望む支援のミスマッチ

県全体の公共交通の基本方針

みんなで一緒に「つくり」・「まもり」・「そだてる」
とちぎの未来に繋げる公共交通

県全体の公共交通の計画目標



関係者間の役割分担

県	広域的な公共交通ネットワークの確保と交通を取り巻く各主体・各機関との連携
市町	地域内の公共交通ネットワークの確保と地域特性に応じた公共交通サービスの提供
事業者	利用者のニーズを適切に把握した安定した公共交通サービスの提供
県民	公共交通を創り守り育てることにより地域に根付かせる

目標達成のための施策

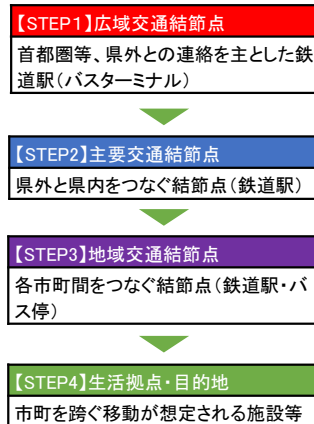
1-1 広域交通ネットワーク維持・形成	2-1 立地適正化計画等と公共交通サービスの連携強化	3-1 モビリティ・マネジメント等の需要喚起施策の推進
1-2 地域特性を踏まえた公共交通の維持・形成	2-2 多様な機能を持ち合わせた待合環境等の整備	3-2 県民主体による公共交通の確保
1-3 交通結節点の充実・強化	2-3 多文化・他地域と共生するためのわかりやすい情報提供・発信	3-3 関係者間の連携及び市町や交通事業者の取組への支援
1-4 地域の実情に応じた財政的支援	2-4 商業施策等との連携	3-4 公共交通の運営維持に向けた新技術の導入・活用
1-5 公共交通に係る担い手確保に関する取組支援	2-5 観光施策との連携	
	2-6 新技術による公共交通施策の導入・活用	

計画の達成状況に関する評価指標及び目標値

目標	評価指標	現況値	目標値(令和10年度)
目標①	鉄道・バス等の利用者数	23.6万人/日(平成30年度)	24.6万人/日
	民間バス及び市町バス(デマンド除く)の1便当たり平均乗車密度	4.1人(令和3年度)	5.1人
目標②	公共交通に関する満足度	60%(令和4年度)	60%以上
	主要観光地の最寄り鉄道駅・バス停における乗降客数	2.6万人/日(平成30年度)	2.6万人/日
目標③	共創に係る事業の取組件数	24件(令和4年度)	50件
	路線定期運行バスの平均収支率	44.4%(令和3年度)	56.0%以上

公共交通ネットワーク図の設定

「交通結節点、生活拠点・目的地」の設定方法



「交通軸」の設定方法



※結節点:複数の交通モードが乗り入れる場所
※拠点・目的地:交通モードが乗り入れる場所

